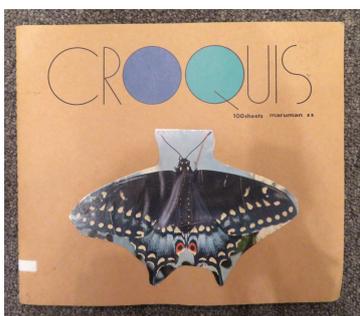


平成30年9月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一「蝶コレクション」 鷹山自身が作成したスクラップブック

「蝶のプローチII」

その日、父は朝からソワソワしていた。母に尋ねると何でも昔馴染みの画商から、チョットやソットでは手に入らぬ「蝶」を持参するとの由だった。

夕方近くに鶴首の如く待ち望んでいた客人がやってきて、「世間広しと言えども、なかなか手に入らぬ代物」と恭しく風呂敷包みを父の前に差し出した。父はこぼれるばかりの笑みを顔面に浮かべ、その結び目を解くと中にはキラキラ光る布が入っていた。

ケゲンな顔をした父を見て「浅草六区の姐さんが使っていたバタフライ」だと客人が得意気な顔をして言う。

「確かに蝶は蝶だが……」とブツブツ言いながら父はその珍品を消毒液に浸けて洗った。

金銀赤青黄紫のスパンコールが付いた蝶形バタフライは、ずつどんと重く黒紐が垂れ下がっていた。ひょうきんな父は着物の上からその黒紐を腰に巻きつけ、当時流行っていた「タブー」の曲を口ずさみ、加藤茶のまねをして「ちよとだけよ」と言い、踊り始めた。

娘の私たちはお腹をかかえて涙を出しながら大笑いをし、母は苦虫を潰したような不快な表情をする。その顔には「なんて下品な」と書いてあった。

今回その「めったに手に入らぬ珍品」を蝶のプローチと一緒に父のコレクションとして公開したく、妹に何度も探してもらったが、どうしても見つからない。

いったいどこに行ってしまったのだろうか。

館長 鷹山 ひばり

2018年度第1回友の会 研修旅行 6月10日

絵画の絆「フランスと日本」展 ・青森県立美術館&「常田健 土蔵のアトリエ美術館」を訪ねて

このほど友の会研修旅行として初めて青森市の「常田健土蔵のアトリエ美術館」を訪問しました。小ぶりな美術館と今も画家本人がキャンバスに向かつて描いているような土蔵アトリエがとて印象的でした。

「研修旅行に参加して」

つがる市／荒谷みわ

6月10日、青森市浪岡にある常田健土蔵のアトリエ美術館に到着。りんご園に佇む美術館は平屋造りで、こじんまりとしています。内に入ると、さすが「青森のゴーギャン」と言われる存在感のある絵に引き込まれ、見入りました。

お百姓さんであった常田健の暮らしから描いている絵は人間そのものであり、感じたままの姿を自分で見て、知っているものを描いているのだと思います。

「飲む男」「母子」などの絵にその信念を感じ、素晴らしかったです。そして東奥日報朝刊「雪の花」の挿絵のデッサンは素晴らしく、二冊のアルバムに納められていました。が、何回も繰り返し見えてきました。別の所に生前アトリエとして使っ



常田健 土蔵のアトリエ美術館

ていた土蔵もそのまま残されていて、興味深く見て来ました。午後は県立美術館に移動して「フランスと日本」展へ。ほとんどが目にした事のある絵に心が豊かになりました。皆さんと別れた後、県美近くのペーパームーンに寄り、コーヒーを飲んで余韻を楽しみ帰りました。

「初めて研修旅行に参加して」

三沢市／瀬川雅子

6月10日、研修旅行参加者を乗せた大型バスは、浪岡にある常田健土蔵のアトリエ美術館と県立美術館の「絵画の絆「フランスと日本」展」の企画展鑑賞のため青森市に向かいました。バスの乗り心地は最高で、車窓からはゆったりと新緑の美しさを眺める事ができました。

りんご園の中に常田健美術館がありました。書きたいものをありのままに描いた画家の絵は、家族や働く人々を描いた作品が多く、慈愛に溢れていました。隣接した土蔵（ア



常田健 土蔵アトリエ

トリエ）は、画家が寝食をしていた当時そのままに、ストーブの上にはやかんが、絵の具や筆がカンバスの横に無造作に置いてあり、画家が今にも「よぐ来たの」と現れそうな雰囲気がありました。

青森市内での昼食は、地元の素材が上品に盛り付けられた和食で本当に美味しかったです。また「バスがホテルのすぐ近くに駐車してくれたので、移動が楽だった」と配慮に感謝されている方もいました。



青森県立美術館玄関前で

県立美術館の企画展は、多くの来館者で混み合っていました。フランスと日本の巨匠55人の作品はどれも素晴らしく、音声ガイドでじっくりと鑑賞する人、カフェで名画の余韻に浸る人、あるいは記念に絵がきや作品集を買い求める人など、皆さん自由に滞在を楽しんでいたようです。帰路の車内では名画の感想を述べ合うなど、研修会らしい会話が盛り上がりました。とても充実した一日でした。企画していただいた関係者の皆様には本当に感謝いたしております。

鷹山宇一 生誕百十周年記念

「宇一が描いた蝶」

9月15日(土)から11月4日(日)まで常設展「宇一が描いた蝶」が開催中です。

生涯にわたって「花と蝶」のモチーフを描き続けた鷹山宇一。本展は、鷹山が描く蝶に焦点を当て、蝶が描かれた鷹山の作品と蝶の標本を展示するという絵と昆虫の世界がコラボした今までにない展覧会となっております。また、鷹山の貴重な蝶コレクションも公開しています。



↑展示の様子。絵と標本を並べて展示しているので、描かれた蝶と標本を見比べることができます。蝶の形や翅の色まで正確に描かれていることがよくわかります。鷹山先生の画家としての姿勢も見えてくるようです。

展示の様子を少しだけ

ご紹介します！



→鷹山先生の絵をこのように蝶の標本で再現しています。実はこちらは額縁ではなく標本箱！標本箱を使ったこれまでにない展示方法です。



↑描かれた蝶全種展示。こんなにも多くの蝶を描いていたとは驚きです。

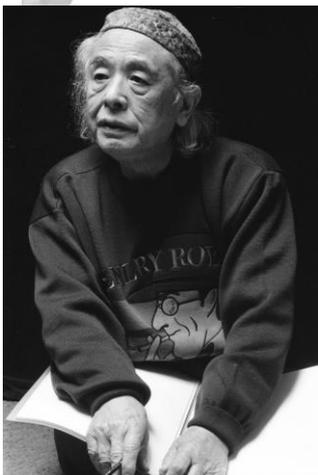


→展示の所々に本展特別協力の対馬康夫氏による蝶に関する豆知識も登場します。こちらも注目です！

絵が好きの方はもちろんですが、蝶が好き、昆虫が好きの方も楽しみいただける展示内容です。



↑鷹山先生の「蝶」コレクション。蝶の標本やブローチ、自ら作成したスクラップブック。貴重な資料も数多く展示しています。



鷹山宇一

花だけでは絵にならないんです。動きがないんです。それで絵を回転させ、動かすために蝶を描くようになったんです。

「宇一が描いた蝶」

9月15日(土)～11月4日(日)

入館料／一般500円・高大300円

小中100円

休館日／月曜日休館

(但し祝日の場合は翌日休館)

■関連イベント

ギャラリートークのご案内

10月22日(土)

展示解説

鷹山宇一記念美術館研究員

対馬康夫氏

(本展特別協力・日本鱗翅学会会員)

時間 1回目(子ども向け) 10時～

2回目(大人向け) 13時30分～

～1人目のお客様～



↑新郷村からお越しの平菫さん。館長から図録のプレゼントがありました。小さい頃から松本作品の大ファンだそう。突然の出来事に驚いたご様子でしたが、大変喜んでいただきました。



青森放送株式会社の創立65周年を記念した「漫画界のレジェンド 松本零士展」が、9月9日(日)、58日間の会期を無事終了し、県内外から7,875人も多くのお客様に松本零士先生の夢とロマン溢れる世界をお楽しみいただきました。

「松本零士展」 Report

↓サイン会スタート！松本先生を前にしたファンの方々は本当に嬉しそうでした。中には涙を流される方も。一人一人に握手もしてくださり、先生のお人柄が伝わってきました。



↑美術館の前は長蛇の列！県内外から松本先生ファンの方がいらっしゃいました。サイン会当日の朝10時から整理券配布にもかかわらず、前日の夜から並んでいる方がいらっしゃってびっくり！開館の10時前には定員の100名に達してしまいました。

8月12日(日)、「松本零士先生サイン会」を開催しました。

8 / 12 (日)
松本零士先生サイン会

■中学生の時に夢中になったアニメ、漫画の原稿などが見られるなんてとても貴重な体験でした。
八戸市50代 女性

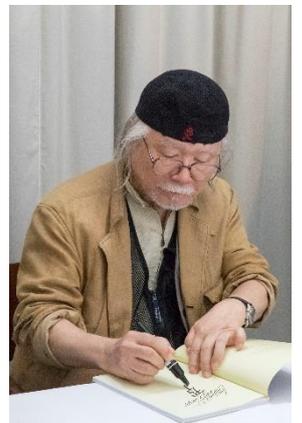
■中学・高校の頃、大ファンでおそらく私の人生に大きな影響を与えた作品で大変懐かしかったです。
青森市50代 女性

お客様からの声

→お帰りの際に車掌さんと！
松本先生、ありがとうございました。



→松本先生は、細いペンと太いペンを使い分けて、ファンの方一人一人に丁寧にサインを書かれました。



■松本先生の作品は子どもの頃から大好きで、まるで夢のようでした。特に「銀河鉄道999」はとても気に入りました。アニメの展覧会は今後も取り入れてほしいです。
三沢市50代 男性

■懐かしさで泣いてしまいました。本当にうれしかったです。
青森市40代 女性

■松本先生の描く女性のキャラクターがとても大好きで来ました。初期の作品なども展示されていてとても興味深かったです。
野辺地町40代 女性

■原画の美しさ、色彩の鮮やかさに息を飲みました！
青森市30代 男性

■松本先生の大ファンでは非行きたいたと思っていました。「銀河鉄道999」や「男おいどん」の原稿やセル画、特に「999号」のアクリル画は大変すばらしかったです。ただ戦争漫画シリーズの原稿がなかったのは残念でした。
八戸市40代 男性

たくさんのご感想・ご意見
ありがとうございました！

平成30年度
鷹山宇一記念美術館「美術館あーとくらぶ」
松本零土展
「特別ワークショップ」

★松本零土展特別ワークショップ①★



8月11日(土)は、「パステルで宇宙を描こう」です。

講師は佐伯知美氏です。パステルを茶こしを使って摺り粉状にします。宇宙をイメージして紙に粉を塗っていきます。宇宙に点在する惑星や星を様々な大きさの○型を練り消して色抜きする事で表現します。惑星



に少しだけ色を入れて最後はスパッタリングという技法で仕上げます。水で溶いた白い絵の具を茶こしの網を使い歯ブラシでシヤカシヤカ。紙の上に散った絵の具が輝く星の様に見えます。これで完成です。



子ども達ははりきって歯ブラシを動かしていました。スパッタリングはどこにどんな散り方をするかが予測出来ない分、勢いが必要。大人は恐る恐る歯ブラシを握り仕上げていました。

★松本零土展特別ワークショップ②★



9月2日(日)は、「レジンで作る宇宙ペンダント」です。

講師は佐伯知美氏です。レジンとは透明な樹脂のことです。粘度のある液体状態で着色したり液体の中に写真やチャーム(小さな飾り)などを入れ固めることでアクセサリや小物を作ることが出来ます。今回使ったレジンは紫外線で硬化出来るUVレジンを使用しました。



レジンとは透明な樹脂のことです。粘度のある液体状態で着色したり液体の中に写真やチャーム(小さな飾り)などを入れ固めることでアクセサリや小物を作ることが出来ます。今回使ったレジンは紫外線で硬化出来るUVレジンを使用しました。



土台にマニキュアで宇宙をイメージして着色していきます。この上にレジンをおぼくりと盛りあげ硬化させて完成です。レジンをのせると平面の土台に塗った色が宇宙空間のように浮かび上がりました。

イメージの色とちよつと違ってしまったと言われる方もいましたが、皆さんレジン初体験。WSは完璧なものをつくるより出来た時の偶然を見つけるのもまたひとつの楽しみではないでしょうか。カラーでお見せ出来ないのが残念ですが、素敵な宇宙ペンダントが出来ました。



せんべいストラップづくりの様子

★8月7日火曜日(夏休み) 城北児童センター(七戸小学校隣接)

へ出前講座に行ってきました。前半・後半と分けて行い参加者は合わせて37名。細かい作業の一つ「ゴマを切る作業」を丁寧にこなした本物に近いせんべいストラップが完成しました。



★8月27日(月) 南部町の「アートセンターめいぷる」様が13名来館。年配の方ではさみを使うことが少し苦手な方、作業に遅れが出る方もいましたが、周りの助けを借りながらストラップが完成しました。



「アートセンターめいぷる」はドライフラワーでリースやしおり、ストラップづくりが体験出来る施設です。過去にリース作りを体験しました。すく素敵にリースが出来ました。皆さん是非足を運んで見て下さいね。



美術館日誌

◆7月◆

- ▼1日(日) 桜・さくら・花しょうぶ
成川美術館コレクション最終日
- ▼2日(月) 桜展作品撤去作業
(東京マルイ美術)
- ▼3日(日) 地下貯蔵タンク定期点検
(県南保全センター)
鷹山宇一が描いた蝶展作品借用
(遠藤・織川/八戸)
- ▼6日(金) タミヤ展打合せ
F1タイレル入庫確認
(株)タミヤ催事課新田氏来館



▲展示室に入る！？かな

- ▼11日(水) 13日(金)
松本零士展展示作業
(アートスペース・青幻舎)
明の星短期大学講演
(館長/青森)
- ▼14日(土) 特別展「漫画界のレジ
エンド松本零士」開催

- ▼19日(木) カメイ美術館訪問
(館長・遠藤・織川/仙台)
- ▼21日(土) 七彩会
- ▼24日(火) 米内山正義氏
青森県商工会長就任を
祝う会出席

◆8月◆

- ▼25日(水) 児童絵画審査
(館長/盛田旅館)
- ▼27日(金) カトリック幼稚園総会
(館長/青森)
- ▼30日(月) 青森県私立学校審議会出席
(館長/青森県庁)

- ▼1日(水) 七戸町民無料デー
- ▼4日(土) 渡辺貞一作品寄贈者
京都市・中井昌美氏御夫妻来館
- ▼7日(火) ワークショップ
「せんべいストラップ」
(織川・江刺家/城北児童センター)
- ▼9日(木) RABラジオ生中継
ワークショップ
「パステル画で宇宙を描く」
講師 佐伯知美氏
- ▼11日(土)



▲サイン会待ち
▼サイン会最初のお客様



- ▼12日(日) 松本零士先生サイン会
(スペイン民芸資料館)
- ▼17日(金) (株)タミヤ
田宮俊作会長来館

- ▼19日(日) 七彩会
- ▼20日(月) 21日(火)
公用車リコール修理
七戸物産協会
宮沢公生社長葬儀出席
(館長)
- ▼22日(水) 「鷹山宇一が描いた蝶展」打合せ
(青森スタジオ葛西氏来館)
- ▼25日(土) 友の会研修旅行説明会
- ▼26日(日) 屋根改修工事
- ▼27日(月) アートセンターめいぷる
13名来館(解説/遠藤)
(ワークショップ/織川)
むつ小川原財団説明会
(館長・成田/青森)

◆9月◆

- ▼2日(日) ワークショップ
「レジンで作る宇宙ペンダント」
講師 佐伯知美氏
- ▼7日(金) 七戸町国際交流推進事業
台湾・明華国民中学校
家長会受入(36名)
- ▼7日(金) RABラジオ生中継
- ▼9日(日) 松本零士展最終日
- ▼10日(月) 松本零士展作品搬出
空調改修工事・屋根改修工事
(スペイン民芸資料館)
- ▼11日(火) 12日(水)
鷹山宇一が描いた蝶展展示作業
(青森スタジオ)

- ▼13日(木) 青森放送(株)
山本恒太社長訪問(館長/青森)
- ▼16日(日) 七彩会
- ▼21日(金) 七戸まちなか大芸術祭
開催式出席(館長)

- ▼27日(木) 28日(金)
第18回鷹山賞審査
審査委員長 濱田進氏来館
- ▼29日(土) 渡辺貞一作品搬出
京都「えき」美術館貸出



▲RABラジオ生中継！！
張間車掌&遠藤メーテル
生中継の合間にパチリ。



▲屋根の改修工事始まり
ました



▲台湾からようこそ！七戸町へ

「アオタテハモドキと
タテハモドキ」
宇一が好んで描いた蝶たち
鷹山宇一記念美術館 研究員 對馬 康夫
(日本鱗翅学会会員)

前回の報文で鷹山の描いた蝶ベストテンを発表しましたが、ベストテン入りしたタテハチョウ科の蝶は第2位のアカタテハと第9位のアオタテハモドキです。アオタテハモドキは国蝶のオオムラサキやヒオドシチョウ、ルリタテハ等と比べるとそんなにメジャーな蝶ではありません。それもそのはずでこの蝶は沖縄よりも南の亜熱帯・熱帯区に生息し、本州では台風に乗って飛来したものが偶然に採集され記録として残されている程度です。

和名のアオタテハモドキとは、アオ(青)いタテハモドキを意味しますが、それではタテハモドキとはどんな蝶なのでしょう。この蝶はいだいな色の翅に大きな目玉模様を持つ中型の美しい蝶です。鷹山は「森の花」(1973)、「花と灯台」(1980年代)の2作品にタテハモドキを忠実に描いています。モドキ(擬き)とは似て非なるものを表す接尾語ですが、それではタテハモドキはタテハチョウ科に属さない蝶ということになりますがこの蝶はれっきとしたタテハチョウ科の蝶です。どうやら命名の間違ひではないかということ

になりますが、すでに時効です。昆虫などの分類学者にとつてモドキは便利な言葉であるらしく、命名に際してある種の昆虫に似ていると安易にモドキを付けて処理してきたのではないかと指摘できそうです。日本産の蝶に限って見ても両種の他にクロヒカゲモドキ、キマダラモドキ、ヒヨウモンモドキ等、モドキの付いたものが7種もあります。

さて本題のアオタテハモドキですが、この蝶は大きさもタテハモドキに似ており、また同じ様に翅に目玉模様があり、特に雌の目玉が大きく、後翅の表面は雄では光沢のある濃い青藍色、雌は茶褐色をしています。

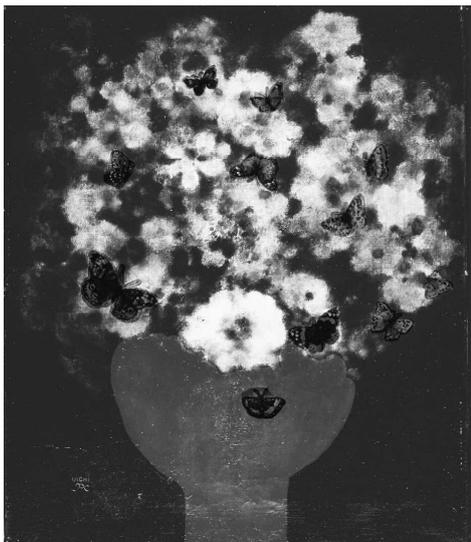


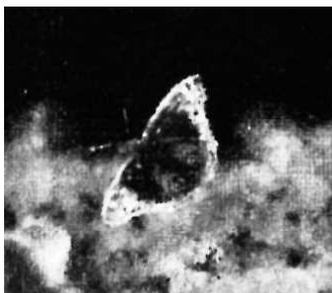
写真1 「花・遊蝶」 油彩
1960年代



「花・遊蝶」部分

が描かれています。翅が開いた状態で描かれた作品は一見してアオタテハ

鷹山はこの蝶を17作品に描いています。「遊蝶花」(1957・1962)の2点と「花・遊蝶」(1960年代)(写真1)には雌が描かれています。「花・遊蝶」作品は今開催された「宇一の描いた蝶」展に標本での再現作品として展示されていますので、作品に描かれた蝶と標本の蝶を見比べて頂きたいと思えます。「遊蝶花」以後の作品には一転して全て雄



「月光のはまべ」部分

雰囲気醸し出しています。おそらく「宇一好み」の蝶の一つではないかと思われます。4回にわたって、鷹山作品と蝶について解説してきましたが、共通しているところは、どの作品にも蝶の同定ができるほど細部まで手を抜かず描き込む鷹山という画家の真摯な姿勢でした。来年は、当館の25周年記念の年でもあり、その記念展として、さらに展示内容を充実させた「宇一と蝶」の企画展を開催する予定です。どうぞご期待下さい。



写真2 「月光のはまべ」 油彩
1974年頃

モドキと識別できるほど特別な色彩をしています。「月光のはまべ」(1974年頃)(写真2)に見るこの蝶は忠実に描かれた翅の色が青緑色の画面に同調しているように感じられ、一種不思議な

「感動の中欧3カ国周遊・美術紀行8日間」

目 程 表

- 1日目** 平成31年5月7日(火)(仮の日程です)
午前東北新幹線で出発→羽田空港着
14:05 羽田空港～フランクフルトへ 着後、乗り継ぎ
フランクフルト～ブラハハ [ブラハ泊]
- 2日目** 5月8日(水)
世界遺産 ブラハ歴史地区観光
ブラハ城、カレル橋、旧市街広場等観光 [ブラハ泊]
- 3日目** 5月9日(木)
専用バスにてブラハ～世界遺産チェスキー・クルムロフ～
ウィーンへ [ウィーン泊]
- 4日目** 5月10日(金)
世界遺産 ウィーン歴史地区観光 王宮ほか
OP:ウィーン国立オペラ座でオペラ鑑賞 [ウィーン泊]
- 5日目** 5月11日(土)
世界遺産 シェーンブルン宮殿インペリアルツアー
美術史博物館鑑賞 [ウィーン泊]
- 6日目** 5月12日(日)
専用車でブタペストへ 世界遺産ブタペスト市内観光
夜:ドナウ川クルーズ [ブタペスト泊]
- 7日目** 5月13日(月)
ブタペスト～フランクフルトへ 着後、乗り継ぎ
フランクフルト～東京へ(羽田) [機中泊]
- 8日目** 5月14日(火)
12:15 東京 羽田空港着 めてたく解散



ウィーン・世界遺産シェーンブルン宮殿 (イメージ)



フェルメール 絵画芸術

平成31年度の「友の会設立25周年記念事業」として第7回海外研修旅行「感動の中欧3カ国周遊・美術紀行8日間」を計画中です。中欧各地の世界遺産のほか、クリムト、エゴン・シーレ、フェルメール、プリューゲル等の充実した作品が楽しめる友の会ならではのオリジナル美術紀行です。

平成30年12月発行の会報第93号及び同封のチラシで募集を開始致します。ご期待下さい。

○ご旅行代金 35万円～38万円(予定)

(東京往復の交通費は含みません。)

○募集人員 30名(最少催行人員:20名)

○催行時期 平成31年5月中旬予定

○募集時期 平成30年12月25日(日)～

○問い合わせ先 鷹山宇一記念美術館友の会

新規会員入会お誘いのお願い

友の会会員登録更新のお願い

平素から会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。今後とも鷹山宇一記念美術館の応援をよろしくお願ひ申し上げます。友の会では会員の皆様に喜んで頂けるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存で御座います。

なお、更新及び新規入会手続きは美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っておりますので、新規会員の勧誘について会員各位のお力添えをお願い致します。

○友の会主催事業概要

①県内外美術研修旅行(年2～3回)

②海外美術研修旅行(数年ごと)に実施)

③美術館作品購入基金への協力

④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力

⑤会報(年4回)発行

⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円

特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により本人入館料2割引

②ミュージアムグッズ1割引(除外品有り)

③研修会、講演会への招待、優待

④他美術館等の視察研修への優待参加

⑤会報の配布

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円

一般会員特典に加えて

①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで年間無料入館

②新規加入の方に画集1冊贈呈

(個人・法人) 年会費 2万円

一般会員特典に加えて

①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで年間無料入館

②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

年会費

①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで年間無料入館

②新規加入の方に画集1冊贈呈

③特別企画展の都度「招待券」を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

◎ミュージアムグッズ紹介

★新「鷹山宇一画集

一冊 二千円+消費税

★鷹山宇一素描集

一冊 千円+消費税

★会報合本II

一冊 千円+消費税



☆特別展開催中は、特別展に合わせたグッズを取り揃えております。どうぞご利用ください。

☆お問い合わせ先 鷹山宇一記念美術館

編集後記

会報第92号をお届けします。会報作成に当たり研修旅行記等の投稿をいただき、感謝申し上げます。有り難う御座いました。今後とも会員各位の旅行記、紀行文等会報作成へのご協力と新規会員入会へのお力添えを宜しくお願い申し上げます。

(照井壽)